



# 本佐倉城跡鳥瞰図(部分)



印旛沼



城山への通路



城山・奥ノ山の堀切

## 本佐倉城とその城下町

本佐倉城は現在の地名では印旛郡酒々井町本佐倉と佐倉市大佐倉に所在しますが、中世では城の周辺を下総国印旛郡印東荘佐倉といいました。

城は印旛沼に接する標高約36mの台地に築かれ、その範囲は東西約700m、南北約800m、面積35万平方メートルに及びます。現在に残る城跡は幾度かの拡張を施した戦国時代末期の最も発達した有様を伝えています。

城の周囲には、東に「酒々井宿」、南に「本佐倉宿」、西に「鹿島宿」、北に「浜宿湊」が所在し城下町を形成していました。現在でも各所に屋敷名称などが傳承されています。



## 本佐倉城の歴史

本佐倉城は文明年間(1469~1486)に千葉氏の居城として千葉輔胤によって築城されました。輔胤は享徳三年(1454)に始まる関東の動乱による千葉氏内紛の中で下総守護千葉氏の家督を継いだ人物で、千葉氏代々の居城であった「千葉城」が戦場となり荒廃したため、「本佐倉城」を築いて新たな千葉氏の居城としました。以後百余年、天正十八年(1590)に豊臣秀吉により千葉氏が滅ぼされるまで、当主九代が居城し下総の首府として栄えました。

貴重な文化財として国史跡に指定され(平成10年9月11日)、その保存整備が進められています。

## 本佐倉城のつくり

本佐倉城は内郭群、外郭群、城下町を含む総構えの三重の同心円で構成されます。このうち内郭群は城主のための空間であり、御殿、馬場が存在した郭を中心とした複数の郭から構成されています。外郭群は土塁と空堀により区画された広大な面積を持つ郭で家臣の屋敷などに利用されていました。



倉址と奥ノ山(右)

城外から外郭、内郭に向かうと大規模で堅牢な空堀、土塁・櫓台などが複雑に配置されており戦いのための城郭であったことが理解できます。

過去に実施された埋蔵文化財調査では多くの建物跡とともに青磁・白磁などの中国陶磁器や碁石、天目茶碗、儀式用の酒環など当時を物語る遺物が多く発見されています。

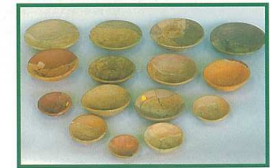


セツテイ山

年号	西暦	本佐倉城跡略年表
享徳三年	1454	千葉氏内紛により千葉城炎上。直胤等多古で討死。
文明年中	1469 ~ 86	輔胤、本佐倉城を築城。 孝胤、白井城を攻める武蔵千葉、太田道灌らと戦う。
明応五年	1496	佐倉「中城」にて家臣某誅殺される。 千葉妙見宮古領され、本佐倉城内に妙見宮遷座する。 勝胤、本佐倉城を大改修か。浜宿に勝胤寺開創。 親胤、城の南に城域を拡大。
永正末年頃 ~大永年中		親胤、城内妙見宮で暗殺される。親胤舎弟出奔。 叔父胤富、家督を継ぐ。
天文年中 弘治三年	1557	胤富、後北条氏とともに武田信玄、上杉謙信、里見氏・正木氏等と戦いを繰り返す。
永祿年間	1558 ~ 12	本佐倉城、火災により炎上。胤富、城普請を命ず。 邦胤、城中寝所に殺害される。大風吹き城破損。
元龜四年	1573	秀吉、小田原北条氏を攻める。千葉氏小田原へ出兵。
天正十三年	1585	五月本佐倉城落城、七月小田原城落城、千葉氏没落。
天正十八年	1590	家康五男、武田信吉佐倉領を拝領。陣屋を構える。
文祿元年	1592	



天目茶碗



儀式用の酒環(かわらけ)

## 城下のなごり

戦国時代本佐倉城下には「市、町屋」のほか数多くの寺社がありました。祈禱所としての真言五ヶ寺(文殊寺、吉祥寺、東光寺、大仏頂寺、宝珠院)、城主開基の勝胤寺、妙胤寺、家臣所縁の長勝寺などの寺院や千葉氏の氏神である妙見社、市の神である八坂神社、市姫社、鎮守である麻賀多神社など寺院が20ヶ寺、神社が17社(合祀社含まず)確認でき戦国時代の城下町の規模を想定することができます。



吉祥寺(根古谷)



勝胤寺(大佐倉)



八坂神社(酒々井)



妙見社(猿楽場)